



## 読書週間(10月27日~11月9日)



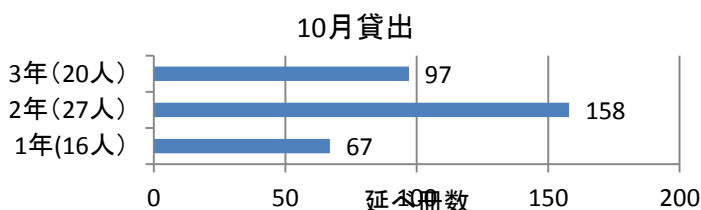
冷たい北風が吹く頃、ふっと暖かい日になることを小春日和といいます。そんな日に図書室や教室で背中に日差しを受けて座り、本を読むのは気持ちがいいものです。

読書週間は戦後間もない昭和22年、「読書の力によって、平和な国家文化を作ろう」という決意のもと、出版社・書店・公共図書館そして新聞・マスコミ機関も加わって11月17日から第1回「読書週間」が開催されました。翌年には、期間も文化の日を中心とした2週間と定め全国に広がっていきました。

みなさんも読書にぴったりのこの時期に、自分のお気に入りの1冊を見つけてみましょう。

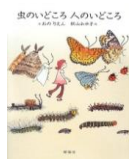
もくせい  
金子みすゞ  
もくせいのにおいが  
庭いっぱい。

表の風が、御門のところで、  
はいろか、やめよか  
相談してた。



LIBRARY 今月の移動図書館「ゆめはこぶくん」  
★11月15日(木) 昼休み

## おすすめ本



### 虫のいどころ人のいどころ おのりえん 作

都会から、緑が濃く虫の多い田舎に引っ越してきたよりさんたち6人家族。まるで虫たちが呼び寄せたような不思議な出来事々におき、都会育ちで虫嫌いの家族の悲喜劇が始まります。



### 空へ いたうみく 著

父親の突然の死により、母ちゃん、妹、そしてオレ、小さなアパートでの三人暮らしが始まった。働きに出る母ちゃんに変わって、妹の面倒は見るって言ったもののオレにできることは少ない。隣のお姉さんや二階に越してきた同い年のシュウ。いろんな人との関わりが、オレを少しずつ変えていく。そして、祭り好きだった父ちゃんに変わって、みこしをかつぐ決心をする。もちろんうまくは担げないけれども、今の自分のもてる力をふりしぼって、みこしを空へ、空へと高くつきあげる。



### 100時間の夜 アンナ・ウォルツ 著

私はニューヨークに住みたい。私は生きていたい…。アムステルダムからニューヨークへひとり旅立つ、エミリア。直行便で八時間四十分、時差六時間のあこがれの街へ。エミリアは、そこで知りあいになったセスとアビーの兄妹、ジムの四人で、ハリケーン上陸のニューヨークで大停電の日々を過ごすことになった…。



### 心に元気があふれる50の物語 西沢泰夫 著

笑顔いっぱいの方は、「笑顔の素」を持っている。ちょっと元気が欲しいとき、気分転換をしたいとき、読んですぐにハッピーになれる話が満載。「届いてしまった3200個のポッキー」・「冷蔵庫の飲み物の教え」・「苦手な相手と打ち解けた瞬間」など好きなところから読んでください。